

第3回 核データ・炉定数グループ合同会議

リクエストリスト作成準備会議事録(2)

出席者 ; 百田, 桂木, 坂田, 西村, 更田, 五十嵐, 森田, 立花,
中島(竜), 中島(豊)

日時 ; 41年8月3日, 場所; 原研核物理11号室

議事 ; 前回の討論に基づき, リクエストリスト作成に関するメモが
五十嵐より提出され, 質疑応答がなされた。(添附資料)

炉定数作成者側から作業に使ったデータの説明があつた。
使用したデータはBNL-325, KFK, A/W の3種類で相互比較と, エネルギー的に欠けている点等を示した図表が提出された。

この図表及び作業の過程で得られた問題点をもとに Primary request を8月17~18日までに提出することが桂木氏から申し出された。とくに fissile material については8月7日までに提出される。

inelastic scattering の data については今回の席上提出された。

この Primary request をもとに, 既存データの精度, 測定法等につき調査し, EANDC へのリクエストを作る事が決められた。調査の対象は

inelastic	} なるべく深くほりさげて調査し, final request の段階に接近するよう努力する。
fissile	
resonance	
elastic	
thermal	
fission Product	

但し Primary request より一歩進める問題は調査する側の都合によって、

- I) 必ずしも inelastic と fissile とだけに限らない。
- II) inelastic と fissile の中でも全ての核種について行なうとは限らない。

岩城氏から高速炉用のデータとして fission Product の $\sigma_{n,\gamma}$ の $1 \sim 10^6$ eV のものが欲しい旨要望があつた。

添 附 資 料

Request list の整理について、EANDC 第9回会議で次の事が決められた。;

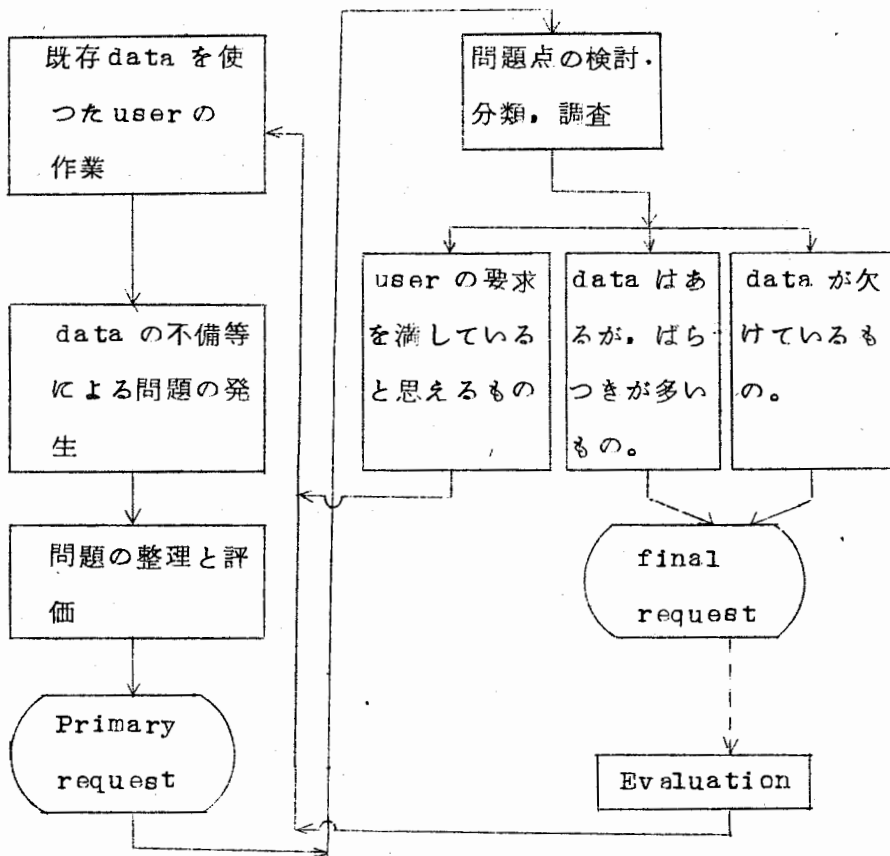
- I) EANDC 第10回会議においてRequest の収集について検討する。
- II) 各委員は秋までに各自の所のRequest の収集について検討
- III) とりまとめの方式は測定方法別に米国方式をとる。

JNDC ではこの線にそつて国内のRequest をとりまとめることを7月22日の運営委員会で決定した。この決定に従つて7月29日にとりまとめの具体策についての検討会が開かれた。以下はその時問題になつたことと、話合いの概要である。

- 1) 他の所でRequest されているかどうか、測定 data が他にもあるのではないかと等にかたわら必要はない。Request されている回数が多ければ Priority が上ると考えられる。
- 2) reactor からのRequest を優先する必要はなく、測定者側のものも同等に考えられる。
- 3) 現在行なわれている炉定数作成作業で幾つか問題がある。但し、現在の作業は compiled data (BNL-325, etc) を基にしているのものでそのままでは外部へは出せない。
- 4) 3) での問題を種類をしぼつて検討することも考えられる。
- 5) 炉定数作成作業で得られた問題を資料として提出する。

7月29日の話合いを基にして、Request list 作成のための試案を提示する。

data の Request は次の図のような Process を経て出るのが本来の姿である。



図の左側は、user においてなされる作業であり、7月29日の会合でも炉定数作成作業を通してこれまでの資料は提出されることになった。

問題は図の右側で、EANDCには、この過程で final request までもつて行つてから提出するのが望ましい。そのためには時間的にも労力的にもかなり多くのものが必要である。それは Primary request として提出されるものの量、質に依る。

Request list 作成の最も簡単な方法は、Primary request をそのまま提出することである。しかしこれは前頁3)により好ましくない。

次の案は図の右側の第1段階まで行なりことである。この場合には、Primary request にあげられた全部について浅くやるか、一部分について深くやるかのどちらかである。

今回の時間的制約から考えると、(Primary request)の全部と、その一部を選んでそれを (final request) まで持つて行く案が良いのではないか。